

6 - 1 ユニバーサルキャンプ～われら あったかぞく～

平成18年9月16日～17日

1 ねらいとその達成状況

事業項目・区分 (現代的課題等)	障害のある青少年への支援を行う事業 ボランティア学習の推進を目的とした事業			
事業のねらい (学習要求や必要課題等)	障害児親子・健常児親子・悩みを抱える青年等が、ともに野外体験活動プログラムを楽しみながら、「気づき」を大切に共同生活をする。ボランティアは福祉についての知識・技術・心構えを身につける。			
ねらいの達成状況 (参加者の変容等)	参加者から、ボランティアとの交流をとおして、日常では味わえないような感動を得られたとの声が多数聞かれた。また、ボランティアスタッフは様々なプログラムをとおして、福祉に対する心構えやスキルを獲得することができた。			
参加者のアンケート 結果(満足度)	事業全体	100%	プログラム	100%
	運営	100%	職員の指導・助言	100%

2 企画・立案

事業の必要性 (理由・背景等)	平成15年度に策定された「人権教育・啓発に関する基本計画」を踏まえ、本所では、福祉活動を目的とした事業を積極的に推進している。本事業は、障害を持った青少年を対象に活動している団体と連携して、心のバリアフリーを目指し、障害者・健常者が共に活動できるプログラムを開発・実践するものである。		
ニーズの把握状況	昨年度の参加者や福祉施設職員、養護学校の教員などから、生活面やプログラムに関するニーズの聞き取りを実施した。また、ボランティアスタッフからの具体的なプログラム内容に関するニーズを引き出した。		
ねらいとプログラムの関係	参加者全体で楽しめるプログラムと各自の体調やペースに合わせて選択するプログラムを効果的に連動させた。また、アニマルセラピーの観点から乗馬体験を、冒険的なプログラムとして熱気球体験を導入した。		
主なプログラム (タイムテーブル)	第1日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
	14:00～14:15	開会式	ねらいの共有化等
	14:15～17:00	野外プログラム	選択プログラム クレープ作り むかしの遊びブース 工作・クラフトブースなど
	17:30～19:00	野外での夕食	
	19:00～21:00	交流会	歌やフラダンスなど
	21:00～	テント泊	
	第2日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
	7:00～7:30	オプションプログラム	周辺散策
	7:30～8:30	野外での朝食	グループ別実習
	9:00～12:00	野外プログラム	選択プログラム 乗馬体験 熱気球体験 アロマセラピーブース 工作・クラフトブースなど
	12:00～13:00	野外での昼食	
	13:00～14:00	お別れ会	
事業の改善点 (継続事業のみ)	選択プログラムを充実させたことにより、参加者の興味・関心、体調などに対応することができた。また、交流会のゲストに、視覚障害をもったシンガーソングライターやフラダンスチームを招いたことにより、充実した交流会になった。		
企画・立案体制(関係機関・講師との連携等)	実行委員会を組織し、基本的な企画・立案を行った。実行委員には、共催団体である「群馬県キャンプ協会」の推薦を受けた4人と職員で構成した。また、群馬県社会福祉協議会と上毛新聞社の後援を受けた。		
募集人数の設定基準	参加者が安全にキャンプを体験できる人数を、実行委員会で検討し設定した。		
実施時期の設定理由	気候的に過ごしやすく、多くの参加者が見込める9月中旬に設定した。		

3 参加状況等

募集人数・募集対象	募集人数：参加者 30人 募集対象：親子・高齢者・引率者
参加者数(申込者数)	参加者数：参加者38人(申込48人)
参加者内訳	幼児：4人、小学生：9人、中学生：2人、高校生：2人、学生：0人

	社会人：21人（10歳未満10人，10代7人，20代1人，30代6人，40代9人，50代2人，60代3人）
参加地域	設置道県：30人 設置道県以外：8人（内訳：埼玉県5人，東京都3人）
広報活動	開催要項・チラシの配布及び掲載（関東地区の社会教育施設・都道府県委員会等・青少年教育団体・各種学校・WEB上・新聞・広報誌等）
参加費	3,000円
運営担当者	企画指導専門職：4人 法人ボランティア：46人

4 事業実施

ねらいの周知・方法 （参加者・講師・職員）	事業実施前に参加者向けに2次案内を送付した。事業のねらいやボランティアスタッフ事前研修会の様子，事業の詳細について周知した。実行委員やゲストとはメールのやりとりや事前の打ち合わせにおいて，ねらいを共有化した。
参加者の学習状況 （学習内容・方法）	参加者はボランティアの支援を受けながら，乗馬体験や熱気球体験，フラダンスなどの様々なプログラムに積極的に取り組み，多くの気づき・感動を獲得した。
日程運営 （スケジュール）	参加者のニーズや体調によって，プログラムに流動性を持たせた。また，参加者親子とボランティアスタッフの交流が十分に図れるように，プログラム間のニッチ的な時間にゆとりを持たせた。
学習環境 （施設設備・教材資料等）	参加者が安心して事業に参加できるように，会場図や主な日程などを記した模造紙を会場に掲示した。また，参加者にとって重要な施設（トイレや保健室など）に分かりやすい大きな表示を掲示するなどの工夫をした。
健康・安全対策	○事前に健康面に関するアンケートを実施し，健康管理の参考とした。 ○安全に活動できるように，事前にキャンプ場の草刈りやテントの整備を実施した。 ○夜間にテントサイトを移動しやすいように，ランタンで道を照らした。 ○テントごとにランタン・電池式蚊取り器を貸し出した。 ○看護師（当所職員）を常駐させ，不測の事態に備えた。 ○会場に水分補給のコーナーを設け参加者全員の体調管理に配慮した。
講師・関係機関等との連携 （ボラ等を含む）	実行委員とはプログラムの具体的な内容や会場について綿密にミーティングをした。また，効果的な交流が展開できるように参加者やボランティアスタッフのグルーピングなども連携して実施した。ゲストとは，本事業のコンセプトや参加者の様子，会場などについて電話で連絡を取り合った。

5 事業実施後の評価や普及

参加者の評価 （アンケートの自由記述等から）	「様々なプログラムが用意されていて，誰もが楽しめる工夫をされていて良かった。」「ボランティアさんに沢山支援していただき，ありがたかった」など，事業をとおして得た感動をこれからの生活に活かしたいとの感想が多く寄せられた。
講師・関係機関等の評価	ボランティアスタッフが参加者のモチベーションを巧妙に引き出し，様々な活動に積極的にかわらせることができた。
職員の評価 （企画段階から関わったボラ等を含む）	事前に参加者の健康状態や障害の種類などを十分に把握したことにより，事業のプログラムや食事のメニューなど当日の運営に活かすことができた。また，ボランティアスタッフに対して事前・事後に研修会を実施し，PDCAサイクルを意識させたことにより学びが深まった。
事業報告の状況	文教ニュース社や官庁通信社を通して事業内容を発信した。WEB上にも事業報告を公開した。また，所内にも報告の掲示をした。事業の様子をまとめたビデオを作成し，様々なイベントなどで放映した。
普及実績 （計画・予定を含む）	ボランティアスタッフにより，それぞれの地域・団体での普及が期待できる。
事業後の反応 （参加者・普及先等）	ボランティアスタッフが主体となって，同様な事業を企画するなど動きが出てきており，今後の普及が期待できる。

6 その他の特記事項（成果等）

多彩な講師やゲストの協力によってバラエティに富んだプログラムとなった。普段体験できないような活動をとおして，参加者に多くの気づきを獲得させることができた。
参加者の児童生徒とボランティアスタッフが交流をしている間，保護者に対してアロマセラピーなどの「癒し」の時間を提供した。（レスパイトケア）
ボランティアスタッフにとって，参加者との交流は多くの気づきを獲得することになった。
また，福祉ボランティアに関する心構えや技術を向上することができた。
今回の実行委員：群馬県キャンプ協会から4名
今回の講師：ぐんま夢座（熱気球），NPO法人 す馬いる（乗馬），松本英樹氏（歌・ギター） 高橋加代氏（アロマセラピー），フラスタジオケアオナニ（フラダンス）